

2019年度 発達保障学校

~~~~~  
***SYLLABUS***  
~~~~~

(講義計画)

人間発達研究所



<p>コース名 「入門の入門」コース</p>	<p>2019年度回数 全3日5コマ</p>	<p>担当者 坂本彩・高田智行・武居誠</p>
<p><b>授業の内容</b></p> <p>入職3年目くらいまでの職員が対象のコースです。乳幼児から成人期を対象とする方までグループ分けなどしながら学びあいます。</p> <p>目の前で起こっている問題や悩みを発達的に読み解くとどうなるのか。その力をつけるための入り口に立てることをめざします。若手職員が目の前のことでいっぱいになっている、でもそのことに意味があることを伝える、文字通り「入門の入門」コースです。</p>		
<p><b>開講計画</b></p> <p>第1回 6月16日 9:30～16:30 オリエンテーション 講師自己紹介&amp;参加者自己紹介 講義① 「発達を学んで？」 グループワーク 「わからないこと」「印象に残ったところ」のわかちあい。 講義② 「発達の理解を実践に生かすって？」 宿題① 「次回までにこんなことをしてみよう！」 宿題② 「気になるニュースを切り抜いてこよう」</p> <p>第2回 9月8日 (学校) 9:30～12:30 + (オプション企画) が、あるかも。 9:30～12:30 グループワーク 「これをやってみよう！」をやってみてどうだったか「わかちあい」 実践報告 PICAGIP 壁新聞づくり 「私たちの仕事と社会のつながり」 宿題 「気になったニュースをさらに掘り下げて5分間レポートにまとめる」 グループワーク 「わからないこと」「印象に残ったところ」のわかちあい。 (オプション企画) 13:30～ 受講者の要望などを聞いて、実施するかどうか考えます。</p> <p>第3回 12月1日 9:30～16:30 ニュース掘り下げ5分間レポート発表 ミニ講義①「私たちの仕事と社会のつながり」 実践報告 PICAGIP ミニ講義②「実践報告を受けて」 最後のわかちあい「ワールドカフェ」</p>		
<p><b>その他</b></p> <p>教育実践については、教員の参加が少なく、グループワークのテーマになりにくい状況です。</p>		

コース名 「個人の発達の系」概論コース	2019年度回数 全10日13コマ	担当者 中村隆一
<p><b>授業の内容</b></p> <p><b>【発達理解と歴史理解を得る】</b></p> <p>人間の発達を考える際の基本点は、発達の「これまで」を未来につなぐことにあり、その結節点が、発達の「今」である、ということになります。そして、「今」の姿の背景には、さまざまな歴史があり、この「個人の発達の系」概論コースでは、まず「個人の発達の系」に、さまざまな歴史のひかりもあてながら、発達について立体的に考えてみたいと思います。</p> <p>その一つは、生命が出現し人類の祖先が登場してきた進化という歴史です。また、人間が「発達」という現象に気づき、それを研究の対象にしてきたという人類の歴史にもふれます。あわせて、心理学の優生学・優生政策への関与の歴史やその過ちの克服の努力の歴史についても発達研究の歴史という形でふれます。</p> <p><b>【発達のすじ道を知る】</b></p> <p>人間の発達を支える体系としての発達保障論は、「ひとりの発達が万人の発達になるような」社会の実現とともに、ひとりひとりの発達を具体的に支える方法や技術を必要とします。そうした方法や技術の検討・再構成は、もっぱら支援者固有の専門性ですが、その場合に発達をとらえて内発的な根拠が把握されていることは、重要な意味があります。「啐啄（そつたく）」ということばがあります。雛（ひな）が卵からかえる時、卵の中にいる雛がからを中からつつく（その音が啐）ことと、親鳥が殻を食い破る（啄）とが一致して、雛鳥が殻から出てくることができるといいます。卵の殻の中の様子をつかんで支援する、これが発達のすじ道を知ることの重要な中身になります。</p> <p>具体的には、受精から9、10歳頃までの時期を述べようとしています。</p> <p><b>【発達認識の理論的理解と勘所（かんどころ）を学ぶ】</b></p> <p>同時に、支援者の日々の取り組みの中で、支援の方法や技術が深まるためには、その材料となるさまざまな記録がとても重要になります。その記録をつけるとは、行動や姿を「ことば」にすることですが、その「ことば」がゆたかになっていることが必要です。実際には、変化しようとしている姿であるのに、逆戻りの姿であったり静止した姿としか記録できないとすると、それは支援の方法や技術を検討する材料にはなりにくいのです（発達の理論的理解を得る）。</p> <p>さらに、支援は、人間同士のかかわり・やりとりの中で進んでいきます。ところが、私たちは、話し言葉でのやりとりになれきっているために、話し言葉が無い状態の人たちとのやりとりに戸惑いを感じることにありますが、そうした戸惑いにもできるだけ適切な対案を示したいと思っています（発達の時期ごとのやりとりのツボを知る）。</p> <p>以上3つの課題に迫ろうというのが、「個人の発達の系」概論コースです。</p> <p><b>具体的計画</b></p> <p>まず、冒頭の3～4回目までは、進化や人間の発達認識の深まりなど、歴史的な経過と発達研究における理論的なことがらを学びます。やや理屈っぽい内容ですが、可能な限りいろいろな教材をつかって、初心者の方にも興味を持っていただけるようにすすめます。</p> <p>後半は、受精から胎生期、乳児期前半、乳児期後半、幼児期と10歳頃までの発達のすじ道をたどります。ここでは、発達の各時期の特徴、それを裏付ける具体的な知見、を軸に述べます。特に、他者との関係のありようややりとりについて時間をかけたいと思います。</p> <p><b>すすめ方</b></p> <p>教材は、当日に配布する資料、スライド、VTR などです。スライドのHandoutなどは、</p>		

人間発達研究所のホームページの発達保障学校のコーナーにリンクがありますので講義前にダウンロードしていただくことも可能です。

### **インフォメーション**

#### 《質問について》

講義形式のコースですが、質問大歓迎です。メールでのご質問は下記専用メールアドレスにどうぞ（携帯電話のメールはうまく送受信ができない場合がありますのでご注意ください）。

質問用のメールアドレス r-nakamura@j-ihd.com

#### 《資料など》

講義では用意したスライドをもとに進めますがHandoutは印刷していません。このHand-outやレジュメ、講義の映像、音声はインターネットのサイトにアップロードしますのでご利用ください。

なお録画は、一旦ダウンロードをした上で再生が可能です。ご注意ください。

### **参考図書**

田中昌人・田中杉恵・有田知行『子どもの発達と診断1～5』（大月書店）

中村隆一『発達の旅 人生最初の10年 旅支度編』（クリエイツかもがわ 2013）希望者は割引価格（定価1700円が1200円）で購入できます。

<p>コース名 実践にいきる記録の書き方</p>	<p>2019年度回数 全3日5コマ</p>	<p>担当者 松島明日香・竹澤清</p>
<p><b>授業内容・テーマ</b></p>		
<p>実践記録は「客観的事実を正確に書き写した」ものではありません。そこには子どもや仲間の多様な姿や実践に込められた実践者の思いが綴られています。実践記録を書くことによって、私たちは子どもや仲間たちの姿に潜んだ思いを発見することができると同時に、そこで繰り広げられた実践の意図を深く自覚することになります。それは、次なる実践の方向性を定めることにも繋がる重要なプロセスなのです。</p>		
<p>とはいえ、実践記録を書こうとするとき、そもそもどんな実践について書けばよいのか題材選びから悩む人も多いのではないのでしょうか。まず大切になるのは実践を通して見せる子どもの姿に実践者なりの意味づけがなされ、そのような姿を導いた実践自体への面白さや価値に気づくことにあります。さらに、その姿や場面をどのように表現するのか、目にした現象を実践者なりの“言葉”で語る力が必要になります。</p>		
<p>このコースでは実践記録を書く上で必要となる「子どもや仲間の姿の見方、語り方、意味づけ方」を自分なりに見つけていくとともに、それをどのように実践記録としてまとめていけば良いのかについて学びます。</p>		
<p>子どもや仲間の姿について多様な見方・考え方を発見したい人、子どもや仲間の姿や取り組みを表現する自分なりの“言葉”を見つけない人、自分の実践の中から方向性を選んで文章化したい人、実践記録から自らの実践の意義や課題を確かめたい人のためのコースです。</p>		
<p><b>授業の流れ（スケジュール・内容等の計画）</b></p>		
<p>第1回目 7月7日（日）9:30～16:30：実践を語りたくなる！（担当：松島他）</p>		
<p>①映像を視聴して、グループディスカッションをおこなう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもや仲間の姿について多様な見方、考え方があることを知る</li> </ul> <p>②実践記録につなげるための事例検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集団で気づいたことを出し合う、好きなことを言い合うことの楽しさを味わう</li> <li>・自分たちの実践を言葉にしなが、子どもや仲間の姿、実践の面白さを発見する</li> <li>・出てきた多様な意見から、実践記録に向けて、どれをどのような方向性として取りだしていくのか考える（基準、意図性、テーマなどを絞っていく）</li> </ul>		
<p>第2回目 8月25日（日）9:30～16:30：実践を書きたくなる！（担当：竹沢）</p>		
<p>①実践記録をいくつか読んでみる</p> <p>②実践記録を書く上での課題を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実践の方向性</li> <li>・事実の切り取り方…事実とデータの区別</li> <li>・意味づけ…集団の力を借りる、分かる・分かりやすい実践記録とは</li> <li>・表記・記述…どう伝えるといいのか</li> </ul> <p>③具体的な書き方を知る</p>		
<p>第3回目 11月17日（日）13:30～16:30：私にも書ける！（担当：松島他）</p>		
<p>①受講生に実践記録を書いてきてもらう</p> <p>②実践記録の読み合わせを行う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記述の仕方、表現方法について感想を出し合う</li> <li>・実践自体の大切さについて議論する</li> </ul>		

<p>コース名 実践を学び合うコース</p>	<p>2019年度回数 全5回</p>	<p>担当者 田村和宏</p>
<p><b>授業の内容</b></p> <p>最近の障害児の入所施設の入所理由は虐待や暴力からの擁護・保護が多いそうです。つまり目の前の障害のある子どもたちの姿には、その背景にある家族との生活の時間や関わりなどが、その子の日常の姿にも大きく影響をしてきて、その子の姿を捉えていくことが複雑化・困難化してきているというのが実感ではないでしょうか。</p> <p>あるいは知的障害者の実践現場では高齢化が進み、両親と共に生活してきたけれども、親御さんが亡くなってしまって新しい生活スタイルを模索しなければならなくなってきたが、次どうしていくことが必要なのか悩んでいるという人も多く見られていたりします。</p> <p>それぞれの実践現場では、それぞれなりに曲がり角にさしかかっているということがいえます。</p> <p>そういうときは、実践の話をたくさんしましょう。レポートそのものはうまく書けていなくても、自分の実践がどうなのかについて、自分のことばで記し、語り、それをみんなからで意見交流し、いろんな多様な視点や考え方に触れましょう。</p> <p>このコースの前進の発達保障実践論コースでは、これまで若手の実践者であったり、ベテランの管理者であったり、教員であったり、保育士であったり支援員であったり、学童保育の指導員であったりと多様な参加者で構成されることが続いてきています。それぞれこのコースに期待するところも異なりますから、やや総花的な話になったりはしますが、その人の将来の姿や家庭での暮らしぶりが連想できたりして、支援の方向性が深まったりしてくることもあります。そうやって参加者が元気になって、また明日子どもたちや仲間たちと明るく向き合うことに寄与できるのであれば、まずはこのコースの任務は成功だと思っています。</p> <p>意見交換や議論の中で自分の実践現場との違いや共通点などが見えてくる中で、こういうこともいいかもと「気づき」が見られるようになることもしばしばです。そういう「ニヤリ」得した時間にしていきましょう。</p>		
<p><b>授業の流れ（スケジュール・内容等の計画）</b></p> <p>第 1回 6月 8日（土）pm +交流会  第 2回 8月 17日（土）pm  第 3回 10月 5日（土）pm  第 4回 12月 14日（土）pm +忘年会  第 5回 3月 7日（土）pm +お疲れ様会</p> <p>※なお、年度途中に、学会等の関係で日程の変更も ありますので、ご承知おきください。</p>		

<p>コース名 福祉政策コース</p>	<p>2019年度回数 全5回</p>	<p>担当者 田村和宏</p>
<p><b>授業の内容</b></p> <p>相談や教育や保育、高齢者や障害者を支える職場など、私たちの職場は、より困難さを増してきています。</p> <p>障害児者福祉の情勢を眺めてみると、コーディネーターによる相談機能の強化や緊急時の受け入れ対応・強化、体験機能の機能強化などが打ち出されたり、子どものところでは「障害児支援の適切なサービス提供体制の確保と質の向上」が提起され前進面も多く見受けられていることと並行して、障害児の入所施設の在り方など次の報酬改定をにらみながら議論がはじめられています。一方で者の場合はどうか。定員20人の「ミニ入所施設」の容認、「自立生活援助」「共生型サービス」が新設されて介護保険との統合がにらまれ、障がいの軽い人たちは、「一人暮らし支援」という選ぶことのできない「安上がり」な生活が強められてきています。</p> <p>就労支援に関しても同じです。「就労継続支援に係る工賃・賃金の向上や就労移行、就労定着の促進に向けた報酬の見直し」され、労働時間が長ければ長いほど単価が高い、また平均工賃が高ければ高いほど、報酬単価が高いしくみが持ち込まれています。また、一般就労に向けて、「就労定着支援」という新しいサービスが加わりました。一億総活躍社会においては、集団での支え合いや協力の中でつけてくる力や働くことにむけて、働きたいと自らが願うための力を育む実践には見向きもしない方向へ突き進んでいます。</p> <p>確かに制度の改善のように映ることもありますが、よくよく考えてみれば、ますます「生活しにくい」「生きる喜びが味わえない」ものに引き込まれていっているということも少なくはありません。こうしたときに、私たち自身も悩む日々になっているわけですが、私たちが情勢負けしない実践をすすめていくために、どういう眼を持つことが大事なのかが問われています。このコースは、これまで発達保障実践論コースの中で講義していた情勢部について、議論する時間がとれないなどの状況がありましたので、情勢的な重要さもあり、今回初めて独立コースにしてみました。福祉政策とはいいいながらも、障害児者の制度の問題点や現場での課題・制度との齟齬などについて基本的な状況報告と議論をしたいと思えます。</p> <p>今年度は、参加者の学習要求にも沿いながら計画を立てていこうと思っていますが、例えば「我が事・丸ごと地域共生社会の実現による障害福祉現場での課題と偏向」であるとか、「強度行動障害者の地域での生活に必要な社会資源は何なのか」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「医療的ケアが必要な子どもたちに必要な社会資源を考える」</li> <li>「障害者施設の高齢化と重度化—どこで最後を迎えることを望んでいるのか」</li> <li>「意思決定支援は障害の重い人にも有効か」</li> <li>「介護保険と障害者総合支援法」</li> <li>「相談支援におけるモニタリングの効果」</li> <li>「障害児入所施設の在り方」</li> <li>「障害児者における社会的養護の現状とこれからの方向性」</li> <li>「グループホームを考える」</li> </ul> <p>等について考えていきたいと思っています。</p>		
<p><b>授業の流れ（スケジュール・内容等の計画）</b></p> <p>第1回 6月 22日（土）pm +交流会(17-20)</p> <p>第2回 7月 27日（土）pm +交流会</p> <p>第3回 8月 31日（土）pm</p> <p>第4回 11月 30日（土）pm</p> <p>第5回 1月 18日（土）pm +新年会とごくろうさま会</p> <p>※なお、年度途中に、学会等の関係で日程の変更も ありますので、ご承知おきください。</p>		



<p>コース名 発達基礎理論研究コース</p>	<p>2019 年度回数 全10コマ+1コマ</p>	<p>担当者 荒木穂積</p>
<p><b>講義内容・テーマ</b></p> <p>本コースでは、最近の乳幼児期の発達研究および基礎理論と田中昌人らによって提起されてきた「可逆操作の高次化における『階層－段階』」（『階層－段階』理論と略称する）の学習をすすめます。今年度は、幼児期の階層の1,2歳児（直立二足歩行、道具の操作、言葉の獲得、自我の誕生など）の学習をすすめます。必要に応じて幼児期の階層3,4歳児および、5,6歳児も取り上げます。</p> <p>前半では、乳幼児期の発達の基礎的理解をすすめて行きます。今年度は、テキストとして内田伸子『子どもの見ている世界：誕生から6歳までの「子育て・親育ち」』春秋社、2017年を学習します。併行して「1歳半の節」（『障害者問題研究』特集1歳半の節と発達保障、第44巻2号、全障研出版部、2016年）、「イヤイヤ期再考」（『教育と医学』特集反抗期再考、第66巻12号、慶應義塾大学出版会、2018年）、『2歳半という年齢－認知・社会性・ことばの発達－』新曜社、1993年、ワロン『児童における性格の起源－人格意識が成立するまで－』明治図書出版、1965年などの文献学習をすすめます。</p> <p>後半の前期では田中昌人の「可逆操作の高次化における『階層－段階』」理論（『階層－段階』理論と略称）に焦点をあてて学習をすすめてゆきます。テキスト『人間発達の科学』（青木書店）、『人間発達の理論』（青木書店）を学習します。</p> <p>後半の後期では田中昌人・杉恵らの『子どもの発達と診断：幼児期Ⅰ』大月書店、および『1歳児の発達診断入門』大月書店、1999年を学習します。</p> <p>本コースでは、エキストラとして夏期および冬期に自主学習および集中講義を計画します。人間の発達研究に大きな影響をあたえたと思われる研究者を取り上げ、直接その人の書いた著作を学習します(夏期)。また、その研究者の研究成果を集中講義で学びます(冬期)。今年度はフランスの心理学者アンリ・ワロンの『児童における性格の起源－人格意識が成立するまで－』とワロンの教育思想を取り上げます。</p> <p>個人の発達の系概論コースを修了した人、若手大学院生、発達相談、保育・教育、福祉、医療などの分野で実践している人、『階層－段階』理論の実践と応用に興味をもっている人、『階層－段階』理論を再学習したい人等の参加を期待しています。</p>		
<p><b>授業の流れ</b></p> <p>第1回目：オリエンテーションおよび『階層－段階』理論』の概要（解説）</p> <p>(1) 可逆操作の高次化における『階層－段階』理論がどのような構築されてきたか（テキスト1）</p> <p>第2-4回目：『子どもの見ている世界』（テキスト2）を学ぶ</p> <p>(1) 『子どもの見ている世界』（その1）（テキスト2：1歳半の節）</p> <p>(2) 『子どもの見ている世界』（その2）（テキスト2：自我の誕生と「反抗」）</p> <p>(3) 『子どもの見ている世界』（その3）（テキスト2：2歳半という年齢）</p> <p>第5-7回目：『階層－段階』理論を学ぶ</p> <p>(1) 発達における階層概念の導入について（テキスト3，第Ⅱ部第1章）</p> <p>(2) 発達の原動力をめぐる論争について（テキスト3，第Ⅱ部第2章）</p> <p>(3) 発達における対称性原理について（テキスト4，第4章）</p> <p>第8-10回目：幼児期（次元可逆操作）の階層：幼児期Ⅰ－1歳児・2歳児ごろ－</p> <p>(1) 階層間の移行と飛躍（テキスト5,6）</p> <p>(2) 3つの発達の質的転換期（テキスト5,6）</p>		

(3) 自我の誕生と拡大 (テキスト5,6)

第11回目：幼児期の発達の階層 (次元可逆操作期の階層) 幼児期 I - 1歳児・2歳児ごろ  
- の振り返り

### テキスト

- (1) 田中昌人『発達研究の志』あいゆびい (発行)、萌文社 (発売)、1996年.
- (2) 内田伸子『子どもの見ている世界』春秋社、2017年.
- (3) 田中昌人『人間発達の科学』青木書店、1980年.
- (4) 田中昌人『人間発達の理論』青木書店、1987年.
- (5) 田中昌人・田中杉恵・有田知行『子どもの発達と診断』幼児期 I (3巻)、大月書店、1984年.
- (6) 田中昌人『1歳児の発達診断入門』大月書店、1999年.

### 参考書・ビデオなど

- (1) 田中昌人・田中杉恵『発達診断の実際』(1~8巻) DVD版、大月書店
- (2) 田中昌人・田中杉恵『あそびの中にみる子どもたち』(1~6巻) DVD版、大月書店
- (3) 田中昌人・田中杉恵・有田知行『子どもの発達と診断』幼児期 I (3巻)、大月書店
- (4) 田中昌人・田中杉恵・有田知行『子どもの発達と診断』幼児期 II (4巻)、大月書店
- (5) 田中昌人・田中杉恵・有田知行『子どもの発達と診断』幼児期 II (5巻)、大月書店
- (6) 田中昌人『1歳児の発達診断入門』、大月書店、1999年.
- (7) 京都大学教育学部第二期生有志『あの頃の大学生たち—戦後激動の「改革期」を生きる—』クリエイツかもがわ、2005年.
- (8) 京都大学教育学部第二期生有志『あの頃の若き旅立ち—教育・研究・生活—』クリエイツかもがわ、2006年.
- (9) 田中昌人先生を偲ぶ教え子のつどい実行委員会『土割の刻—田中昌人の研究を引き継ぐ—』クリエイツかもがわ、2007年.
- (10) フロン『児童における性格の起源—人格意識が成立するまで—』明治図書出版、1965
- (11) フロン『身体・自我・社会—子どものうけとる世界と子どもの働きかける世界—』ミネルヴァ書房、1983年.
- (12) 加藤義信『アンリ・フロン その生涯と発達思想—21世紀のいま「発達のグラウンドセオリー」を再考する—』福村出版、2015年.
- (13) 田中孝彦「今、子ども論と老年期論を結びつけて深める」『前衛』第973号、pp.201-216、2019年.
- (14) 田中孝彦『子ども理解と自己理解』かもがわ出版、2015年.
- (15) 田中孝彦『子ども理解 臨床教育学の試み』岩波書店、2009年.
- (16) 田中孝彦『保育の思想』ひとなる書房、1998年.
- (17) 田中孝彦『子育ての思想』新日本出版 (新日本新書)、1983年

### その他

本コースは、レジュメによる発表など参加型学習形式でおこないます。DVDや映画など視聴覚教材を用いた学習も取り入れていきます。ゼミナールの中でテキストの他に関連文献や資料を適宜紹介・配布する予定です。

<p>コース名 発達診断方法論コース</p>	<p>2019 年度回数 全6日6コマ</p>	<p>担当者 中村隆一</p>
<p><b>授業の概要</b></p> <p>方法論コースでは、実際に発達診断に従事しようとする（あるいは、現にしている）人々を対象にしています。受講にあたって、発達保障学校個人の発達の系概論コース、基礎理論コースなどを受講しておられると内容が分かりやすいと思います。</p> <p>主として発達の階層－段階理論に拠りつつ「発達認識の方法論」（実際の診断手技という意味での「方法」とはちがいます）という観点から、次のような柱を想定し、その中でいくつかを選択して学びます。</p> <p>発達診断の主な目的はいうまでもなく一人ひとりの発達の状態の理解にあります。それを実証的にすすめることは、ますます重要になっています。そのためには、日々進歩している研究上の新しい知見を反映していると同時に、具体的な手続きにおける妥当性も欠かせません。同時に、発達診断は、発達臨床としての側面を持っていますから、その手続きや方法も個別性において妥当性が問われます。いいかえると、発達の姿をそのひとを援助するために、どのように把握し提示しうるのかが問われています。</p> <p>現実の発達診断では、仮説を設定し、その検証手続きを吟味し、その結果を評価し、発達の状態について総合的な評価をおこなう、ということになります。この一連の過程について方法論という面から深めます。</p> <p>おおまかには下記のような内容を想定していますが、受講者にあわせて毎年異なっていますので目安としてご理解ください。</p>		
<p><b>授業の流れの一例（スケジュール・内容等の計画）</b></p> <p>第1回：発達の階層－段階理論と発達診断</p> <p>ここでは、発達の階層－段階理論が着想され発展してきた経過も念頭において、</p> <p>①発達検査・知能検査の意味と限界点（1905年にビネーの開発した知的水準の診断法1の論文、ビネー「新しい児童観」1911 など）</p> <p>②③発達の階層－段階理論の概要（主として「静かな法則性」と言われるレベルまで）。</p> <p>第2回：発達診断における仮説と検証</p> <p>①生育歴、主訴から発達診断における仮説に</p> <p>②知能検査・発達検査下位項目以外の着目点の例示</p> <p>③発達相談結果記録</p> <p>第3以降：次元可逆操作の各時期の発達診断下位項目</p> <p>1 次元可逆操作・2次元形成期</p> <p>2 次元可逆操作・3次元形成期</p> <p>3 次元可逆操作</p> <p>1 次元変換可逆操作</p>		
<p>質問用のメールアドレス r-nakamura@j-ihd.com</p> <p>テキスト 中村隆一『発達の旅 人生最初の10年 旅支度編』（クリエイツかもがわ 2013-2）</p> <p>参考図書 『子どもの発達と診断1～5』（大月書店）</p>		

コース名 研究科	2019年10月～ 2021年10月	担当者 渡部昭男・田村和宏
<b>授業の流れ（スケジュール・内容等の計画）</b> <p>発達保障学校のコースを1コース以上受講した方が対象です。研究論文を書き上げ、『人間発達研究所紀要』に投稿することをめざします。メールと面談（スクーリング、2年で6回程度）で研究の計画策定と推進を支援します。</p> <p>2年の流れは、以下の通りです。</p> <p>開校式 指導教員（正・副）の委嘱、2年間のスケジュールの内定</p> <p>計画発表会（6か月目）</p> <p>中間発表会（12か月目）</p> <p>予備論文発表会（18か月目）</p> <p>査読者とのやり取りと完成論文の提出（22か月目）</p> <p>査読・修了（24か月目）となります。</p> <p>指導教員はできるだけご希望に添いたいと思いますが、諸般の事情により、こちらで決定させていただくこともあります。研究科の申し込み締め切りは9月末です。</p>		

---

人間発達研究所

〒520-0052 大津市朝日が丘1-4-39 梅田ビル3階

Tel/Fax 077-524-9387

Email [j-ih63su@j-ihd.com](mailto:j-ih63su@j-ihd.com)

URL <http://www.j-ihd.com/>

---